

戦略的研究プログラム 自然共生研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 各プロジェクトとも、第4期までの研究成果をふまえ、さらに今後の課題を明示したうえで明確な研究背景と目的をもって研究計画が作られており、5年間で十分な成果が期待できる。この分野は一般の方々も大いに関心を持っていると思われるので、研究成果をいかに速やかに分かりやすく発信するのもかも明示してほしい。
- このプログラムでは多様性保全のための社会変革を促すことも目指しており、その意義も大きい。こうした総合的目標の達成度は大変重要で、年度ごとに明確化することでプログラムの進捗管理も可能になる。例えば、社会変革への貢献度などを指標にすることで各PJの評価だけでなく、プログラム全体の評価も可能になり、プログラムで目指す総合化の成果を検証することができる。
- 自然資本や生態系機能の研究に加え、希少動植物絶滅危惧動植物といった生物多様性の質的な価値の保全に貢献する研究にも力を注いでほしい。野生生物感染症や新たな外来種への対策研究は、対症療法研究になりすぎないようにメリハリをつけて取り組んでほしい。

今後への期待など

- 生物多様性・生態系は、SDGs ウエディングケーキの基盤であり、持続可能な自然共生社会の実現に直接貢献すべき研究領域でもある。第5期は、生物多様性の主流化と社会変革を成功させるためにきわめて重要な時期であり、新PJの成果におおいに期待する。また、基盤的研究とのシナジー効果にも期待する。
- 自然資本の定量化、モニタリング手法を、是非、確立していただきたい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①研究成果については、定期的に行っている環境省や NGO/NPO との意見交換会において科学的知見に基づく政策立案や保全活動への貢献を行うとともに、ウェブサイト等も活用した迅速な発信を行います。
- ②ご指摘の通り社会変革に関する指標は必要と考えており、資金メカニズムの検討や行動の分析に取り組みます。
- ③外来種対策については特にヒアリなどの非意図的外来生物の侵入プロセスにグローバル・サプライチェーンが大きく関与していることや、新興感染症発生の背景には野生動物生息域に対する人間活動の過剰な侵食およびグローバル経済が関わっていること、さらにいずれの問題も生態系における共進化のバランスの崩壊が引き金になっていること、など社会・経済的要因および進化生物学的メカニズムについて科学的にデータ分析を行い、これらの問題解決にあたっての社会システム変容の重要性についても研究及び普及啓発を進めていきます。
- ④生態系サービスは、受け手によって変化するので、受益者を考慮した解析が不可欠と考えています。霞ヶ浦では流域から全国を対象とし、それぞれの結果が得られました(流域にとっても全国にとっても価値はほぼ変わらないという結果でした)が、他の生態系は異なる可能性もありますし、またとらえ方によって活用方法も変わってくる可能性がありますので、霞ヶ浦の事例を一つの試金石として考えていきます。